

大岳山の四季を歩く -夏-

日程：2016年7月10日（日）

メンバー：6名（深澤 裕（L）A、SM、SN、F、H）

報告：深澤裕



前日は雨。やきもきしながら当日を迎えました。梅雨はまだ明けず、蒸し暑い日が続いています。奥多摩に9時集合予定でしたが、8時40分には全員集合しました。感謝。

タクシーで海沢園地（うなさわえんち）まで行き、歩き出します。今回は海沢の沢沿いを登り、大岳山まで行きます。海沢園地には車が5台ほど留められていました。ブルーシートが広げられ子どもたちの靴が10足ほど並べられています。今日は子どもたちの川遊びの日ようです。沢では子どもたちのしゃぐ声が響いています。こんな自然の中で遊べる子どもたちは羨ましいです。

海沢は子どもたちの水遊びだけではなく「キャニオニング」というスポーツの場でもあることをタクシーの運転手さんに教えてもらいました。「キャニオニング」というのはウェットスーツを着て滝から落ちたり、ボートで川を下ったり、川を潜ったり川を楽しむスポーツだそうです。40年程前、グランドキャニオンの谷底のコロラド川沿いでキャンプしたとき、「チュービング」で川を下ってきた人と話したことがありました。当時のアメリカ人は豪快な遊びをしているなと思いました。「チュービング」は今では日本でも流行っているようです。

「キャニオニング」というのは初めてききました。「沢登り」や「カヌー」だけでなく、川の遊び方が増えるのはいいものです。これから流行っていくのかなと思いました。フランス発祥のスポーツだそうです。ちなみに、このあたりが日本での発祥の地だそうです。

海沢はあまり人が入らない道です。踏み跡の薄い道を歩くのは良いものです。三つ釜の滝、ねじれの滝、大滝を眺めながら歩きます。標識に「悪路」と記された道を歩きます。苔むした岩や深い緑が強烈です。大滝からの子どもたちの川遊びの音が聞こえてきます。このあたりの道は熊が出ることもあるので、今回トップの私がベアリングを付けて歩きます。今年は全国で熊との遭遇が多いようなので特に気を付けます。皆さん「ここが東京なのか」と感動して歩いていました。トレイルも不明瞭な所がありますが、岩苔や倒木に付いた苔など自然の豊かさに包まれている道です。途中で山菜田が広がります。途中には昔の炭焼き窯の跡もあります。昔の人はこんな所まで来て炭を焼いていたのかと思うと感動します。春に歩いた鋸尾根の出会い合流すると大岳山はもうすぐです。

今回楽しかったのは、「蛭に喰われたことがあるか」談義です。Aさんは「煙草くらいに太った、自分の血を吸った蛭は許せない」と剥がすと「皮膚も一緒にとれてしまうので、出血が止まらない」と自慢げに話していました。「蛭を剥がすのには煙草の火を付けるとか塩を塗るのがいい」とSMさんは言っていました。私はまだ蛭に喰われたことがないので何とも言えません。蛭に喰われた方の話を聞くのもいいものです。

11時30分に頂上。葱生姜ラーメンを作ります。曇天で富士山は見えませんでした。心地よいトレッキングができました。

13時30分。長尾茶屋で休憩。店主の「天空のソムリエ」川崎さんは相変わらずお元気です。長谷川恒男さんの話などで盛り上がりました。殆どボランティア状態で経営する川崎さんには感謝です。私はシャルドネの赤を2杯頂きました。ブルーチーズ・ゴルゴンゾーラの差し入れもあり、ご馳走になりました。

「山香荘」で風呂に入ります。ここは作家の浅田次郎さんの母親の御実家です。この母方の生家に伝わる話をもとにした短編集「あやし うらめし あな かなし」の中に書かれている「赤い絆」「お狐様の話」は明治大正の頃の御嶽山や山香荘の雰囲気や山香荘の雰囲気を良く伝えていています。ここの風呂は「古檜」で作った広い浴槽です。たっぷりのお湯と古檜の香りがトレッキングの疲れを癒してくれました。

今回、レンゲショウマの群生を期待していましたが、花はまだ蕾状態でした。残念。

ケーブルで降りて16時。御獄駅で解散しました。そのあとの反省会。「玉川屋」の蕎麦と「澤ノ井」が腹に染みしました。

秋は五日市側から登ります。馬頭刈尾根から大岳山頂。そして鋸尾根を歩き、奥多摩駅に下ります。ロングトレッキングですが紅葉の奥多摩を楽しみましょう。

<コースタイム>

9:00 JR 奥多摩駅集合～9:10 海沢園地～11:30 大岳山山頂（昼食）

～13:40 長尾茶屋（休憩）～14:30（山香荘で入浴）～16:00 JR 御獄駅で解散